

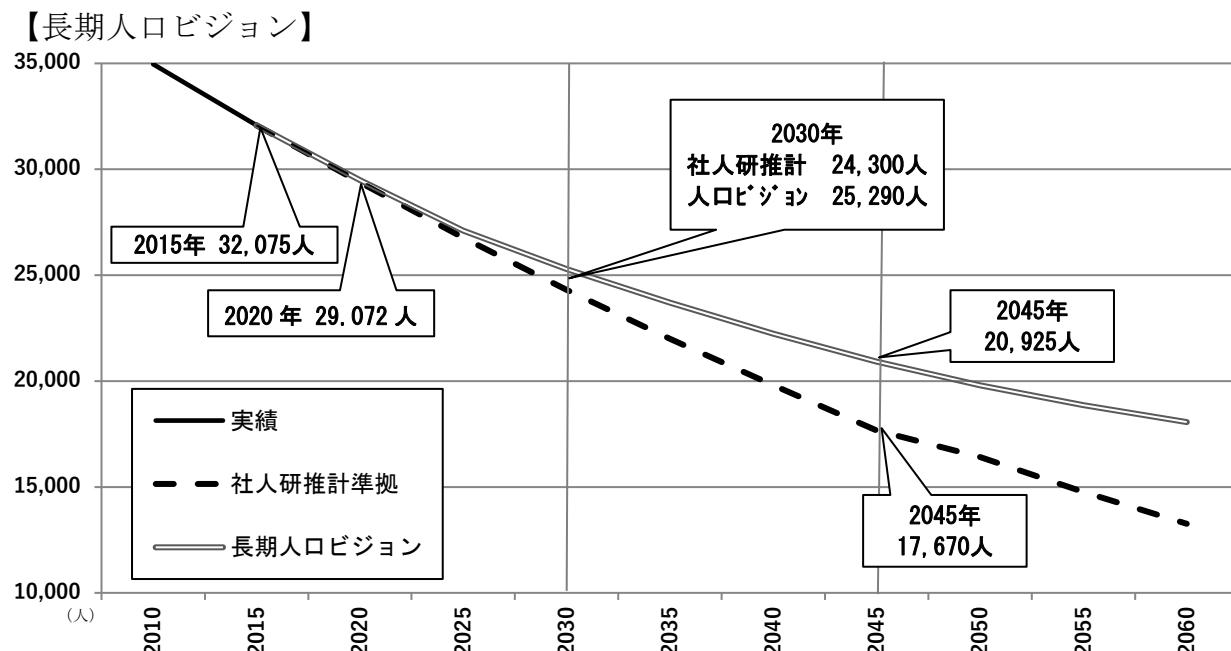
**高梁市総合計画・前期基本計画
(第2期 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略)
施策の進捗状況**

**令和4年9月
高 梁 市**

— 目 次 —

1. 長期人口ビジョン達成に向けた基本目標の状況.....	1
2. 各施策の進捗状況（施策マネジメントより）.....	2
基本方針1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	
政策1 地域産業の振興と安心して働く環境づくりを進めます	
施策1 農林水産業の振興	2
施策2 農山村の振興	3
施策3 商工業の振興	4
施策4 新たな産業の創出と雇用環境の充実.....	5
政策2 観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます	
施策1 観光の振興	6
基本方針2 美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち	
政策1 自然を守り環境にやさしいまちづくりを進めます	
施策1 環境保全対策の推進.....	8
施策2 循環型社会の形成	8
政策2 安心・安全なまちづくりを進めます	
施策1 生活安全対策の充実.....	10
政策3 都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます	
施策1 都市機能の維持・確保.....	11
施策2 公共交通手段の確保.....	12
施策3 社会インフラの充実.....	12
基本方針3 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち	
政策1 健康で心豊かに暮らせる環境を整えます	
施策1 健康づくりの推進	14
施策2 地域包括ケアシステムの推進.....	15
施策3 地域医療体制の充実.....	16
施策4 感染症対策の推進	16
政策2 安心して子どもが生まれ育つことができる環境を整えます	
施策1 子育て支援の充実	18
政策3 みんなで支え合い助け合う地域福祉活動を進めます	
施策1 障害者（児）福祉の充実.....	20
施策2 高齢者福祉の充実	20
施策3 地域福祉活動の推進.....	21
基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち	
政策1 心身ともにたくましい子どもが育つ学校教育を進めます	
施策1 学校教育の充実	22
施策2 教育体制・環境の整備.....	23
政策2 生涯学習の機会を広げ文化・スポーツの振興を図ります	
施策1 生涯学習の推進	25
施策2 文化財の保存と活用.....	26
施策3 スポーツの振興	27
政策3 人権を大切にする共生のまちづくりを進めます	
施策1 人権尊重・男女共同参画社会の実現.....	29
施策2 多文化共生社会の実現.....	29
基本方針5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち	
政策1 市民が主役のまちづくりを進めます	
施策1 市民が主役のまちづくりの推進.....	31
施策2 公聴広報の推進	31
政策2 産学官民連携のまちづくりを進めます	
施策1 学園文化都市づくりの推進.....	33
政策3 持続可能な行財政運営を行います	
施策1 時代に対応した行政経営の確立.....	34
横断的政策1 人口減少対策に取り組みます	
施策1 移住・定住の促進	35
横断的政策2 災害に強いまちをつくります	
施策1 防災対策の強化	37
横断的政策3 未来革新技術を活用します	
施策1 Society5.0の推進	40

1. 長期人口ビジョン達成に向けた基本目標の状況



【長期人口ビジョン実現の前提条件】

①合計特殊出生率が徐々に向上し、2030年以降に国の長期ビジョンと同水準となる。
(2030年: 1.8 2040年: 2.07)

②転出超過となっている社会動態が徐々に改善し、2025年以降に均衡する。
(転入・転出の差がゼロとなる)

【長期人口ビジョン達成に向けた基本目標】

指標	現状値	実績値	目標値
人口の社会増減 (転入者-転出者)	H27~R1 平均値 ▲163人/年	令和3年 ▲349人/年	R3~R7年平均値 ▲79人/年

※岡山県毎月流動人口調査（年報）より

指標	現状値	実績値	目標値
年少人口（0~14歳）の割合	令和元年 9.1%	令和3年 8.6%	令和7年 9.2%

※岡山県毎月流動人口調査（年報）より

【要因分析】

令和3年における人口の社会動態は、過去10年間で最も多い転出超過であった。吉備国際大学の入学者の減少（順正高等看護福祉専門学校の募集停止等）が大きな要因と推測するが、新型コロナウィルス感染症の影響による人流の抑制、外国人の入国制限等により、県外・国外からの転入が大きく減少している状況にある。また、転出数についても横ばい状態にあり、若い世代の流出に歯止めがかかっていない。

2. 各施策の進捗状況（施策マネジメントより）

基本方針 1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち

政策 1 地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます

施策 1 農林水産業の振興

1 市内産農林水産物の消費拡大に努めます

農地と耕作者のデータを集約し、高梁市全域において人・農地プランを実質化した。今後は「地域計画」の策定に向けて地域での話し合いにより農業上の利用が行われる区域を整理し、新規就農者の確保、農地の集積・集約化を進めるとともに、ぶどう、トマト等の主要農産物や地域で消費される農産物の供給力を強化していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
農産物直売所の販売額	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	494 百万円	489 百万円	545 百万円
ぶどう販売額	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	1,007 百万円	1,282 百万円	1,107 百万円
トマト販売額	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	356 百万円	330 百万円	391 百万円

2 農林業の持続的な発展をめざします

岡山県、JA等とも連携し、新規就農者向けの研修、経営開始時の資金を支援するとともに、認定新規就農者を含む担い手向けにぶどう、トマト等の施設や農業機械に対して支援した。今後は、「地域計画」の策定に向けた地域の話し合いにより農地の集積・集約化を進めるとともに、新規就農者向けの農地の確保や情報提供を強化していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
新規就農者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	9 人	8 人	45 人 (令和3年度からの累計)
担い手への農地集積率	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	20%	21%	43%

施策 2 農山村の振興

1 農山村の活性化を図ります

農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、日本型直接支払交付金制度（中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払交付金制度など）を活用し、地域の農業生産活動や共同活動等を支援した。今後は農業者の高齢化や集落の代表者の不足等により交付金の活用が困難になることが想定されることから、継続が困難な集落への支援策を検討していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
中山間地域等直接支払制度対象農地	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	854ha	865ha	888ha
多面的機能支払制度対象農地	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	269ha	249ha	279ha

2 森林の保全と有効活用を図ります

令和6年から事業者による木質バイオマス発電所が稼働することに伴い、市として森林整備、森林資源の活用、再生可能エネルギーの導入といった多角的な観点から支援していく。県内の先進事例（新見市、真庭市）を参考にしながら、事業者への事業推進支援及びバイオマスの安定供給体制を構築していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
里山林整備事業補助金	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	0.2ha	1.5ha	2.0ha
造林作業路新設事業補助金	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	600m	300m	900m

3 有害鳥獣被害防止対策の充実を図ります

国・県と連携して有害鳥獣対策を進めてきたことにより、近年は農業被害額の減少につながっている。今後も引き続き支援を行うことで農業被害額を抑制し、地域農業者の農業意欲の維持、農業所得の向上につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
有害鳥獣捕獲頭数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	野猪 2,405 頭/年 野猿 62 頭/年	野猪 1,546 頭/年 野猿 93 頭/年	野猪 2,700 頭/年 野猿 100 頭/年

施策3 商工業の振興

1 商工業の活性化を支援します

新型コロナウイルス感染症の影響により、新規開業やリニューアル事業に着手する事業者が減り、既存の店舗も経営者の高齢化に伴う事業承継ができずに空き店舗が増加している状況にある。令和4年度から補助制度を見直し、新規開業やリニューアルを行う事業者に対しては補助金の加算を行っている。また、空き店舗の活用として、商店街との連携によるチャレンジショップを検討している。

商店街でのイベントについては、地元高校生や中学生とのコラボにより開催し、地域全体の活性化につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
商工団体会員数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	992人・団体	974人・団体	900人・団体
助成制度を利用した新規事業所数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	7事業所	16事業所	31事業所 (令和元年度からの累計)

2 経営力の向上を支援し、担い手・後継者を育成します

市内中小企業等の意識改革や人材育成につながる企業懇談会やセミナーを開催し、アフターコロナに向けての情報提供や対策を講じる機会を提供していく。また、人材育成につながる資格取得に係る経費の一部を補助することで、事業継続と経営強化を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
助成制度を利用し経営革新や事業継承、リニューアルした事業所数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	2事業所	14事業所	26事業所 (令和元年度からの累計)

3 地場産業の振興と企業誘致を推進します

有漢工業団地は令和3年度に第1期が売却となり、令和4年度からは第2期の造成に取りかかっているところである。更なる企業誘致等に向け、新たな適地調査や廃校、空き店舗の活用を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
事業所数 (製造・小売)	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	471事業所	464事業所	440事業所
誘致企業数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	0社	1社	3社
工業団地造成数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	1箇所	1箇所	2箇所 (令和元年度からの累計)

施策4 新たな産業の創出と雇用環境の改善

1 新たな産業の創設に取り組みます

新たに創業を計画している事業者を支援するため、商工団体と連携して創業塾を開催し、創業に必要な知識等の習得を図っている。国や県の制度を活用し、アフターコロナに対応できる産業の創出を支援していく。

また、6次化産業を推進していくため、県普及指導センターや府内関係課と連携して、製品開発や販路開拓・販売促進につなげていくとともに、市内の廃校や古民家を活用した市内創業も促進していく。

2 安定した雇用の維持・創出に努めます

市内の有効求人倍率が高止まりし、慢性的な人材不足に陥っている。市内就職者を増やしていくため、中学生、高校生を対象とした市内企業見学バスツアー等を継続的に開催し、若い世代に市内企業を知ってもらうための取組を進めていく。また、市内外の方に市内企業を紹介するため、大学や高校と連携して企業ガイドの内容を刷新し作成していく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定期	実績値	目標値
年間の市内新規学卒者数の市内就職	令和元年度	令和3年度	令和7年度
決定者数	87人	71人	100人

3 新たな働き方を支援します

新型コロナウイルス感染症の拡大により、リモートワークなどの新しい働き方の浸透に対応し、自身のスキルアップと技術習得を目的とした「Webデザイナー育成講座」を開設し、新たな産業の創出を図っている。また、新たに創設したサテライトオフィス等整備事業補助金を周知し、市内にコワーキングスペースを多く整備していくことで、新しい働き方の意識改革とハード整備を推進していく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定期	実績値	目標値
サテライトオフィス等の設置数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	0件	2件	2件

基本方針 1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち

政策 2 観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます

施策 1 観光の振興

1 観光交流人口の拡大に努めます

「備中松山城」と「雲海」、「吹屋」と「ジャパンレッド」などのキーワードを軸にマスコミや旅行会社などに幅広いプロモーションを展開するとともに、二次交通の充実などの基盤整備を進めている。コロナ禍のため入込客数の実績は伸びていないが、With コロナの施策など現状に対応した新たな取組により一定の成果が得られている。

今後は、DMO（高梁市観光地域づくり法人）や県観光連盟、JR、連携協定を締結しているANAなどとの連携を強化し、経済効果を高めるための施策やインバウンド施策などの展開を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
年間観光客数（主要施設）	令和元年度 447,000人	令和3年度 195,375人	令和7年度 600,000人

2 地域での観光振興活動を支援します

コロナ禍によるイベント等の自粛が続いているなか、観光ガイドの育成やワーケーションの試行事業など、この状況下においてできる取組を実施している。今後も市を代表するイベントやフィルムコミッショニング等の活動を支援するとともに、インバウンドに備えたガイド研修等に積極的に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
観光ガイド活動実績	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	303件	189件	363件
ロケ支援件数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	31件	7件	40件

3 観光資源の掘り起こしやブラッシュアップによる魅力向上を図ります

DMO（観光地域づくり法人）と連携し、二大観光地（備中松山城・吹屋）や他の観光資源のブラッシュアップを図るために旅行商品の造成を進めている。吹屋では、旧吹屋小学校を核として周辺施設への回遊性を図る取組を進めており、旧吹屋小学校には計画どおり先端技術（XR）が導入できた。周辺自治体と連携した広域ツアーの造成にも着手しており、引き続き観光資源の魅力向上を進める。

4 観光振興を地域経済の発展につなげます

二次交通の強化（レンタカー事業者の誘致や空港・高梁直行バス、グリスロの導入）により、滞在時間の延長につながる基盤づくりを進めているが、認知されるまでに時間を要するため継続的なプロモーションが必要である。

土産物の数は増加しているが、食事メニュー開発の動きは停滞している。経済効果指数を具現化するために「観光TSA」を導入し、観光消費額や観光雇用状況を精査する事業を導入した。宿泊施設の整備、飲食・土産物の開発に向け、関係者の機運を高めながら一丸となって取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
1人当たり観光消費額（日帰り）	平成28年度	令和3年度	令和7年度
	2,780円	2,780円	3,600円
観光宿泊者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	34,121人	17,073人	37,500人

基本方針 2	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 1	自然を守り環境にやさしいまちづくりを進めます

施策 1 環境保全対策の推進

1 環境保全活動に取り組みます

令和4年3月に第2次高梁市環境基本計画を策定。計画に掲げる環境像「いつまでも暮らしたい自然歴史風情のあるまち高梁～地域資源を守り育てる持続可能なまちづくり～」を推進していくために、環境保全に関する各種啓発活動を継続し、市民共通のかけがえのない財産である豊かな自然を次世代に継承していく。また、環境学習・教育を通じて環境意識の醸成や環境保全活動のさらなる活性化を図り、行政・市民・事業者等が参画・協働しやすい環境づくりに取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
高梁川流域クリーン作戦参加者	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	185人	0人	250人

2 地球温暖化対策に取り組みます

令和4年3月策定した「第2次高梁市環境基本計画」及び令和4年6月に表明した「ゼロカーボンシティ宣言」に掲げた取組を推進していくために、身近でできる省エネルギー活動や「COOL CHOICE」(クールチョイス=賢い選択)等の取組みを行政が率先して実践し、事業所・地域への拡大を図る。また、脱炭素社会の実現に向け国・県・他自治体の動向に注視しながら、公共施設や市有地への太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入等についての調査・研究を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
エコチルドレン育成教室等の環境学習の回数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	5回	5回	12回

※エコチルドレン育成教室：次世代を担う子どもたちに対する環境学習

施策 2 循環型社会の形成

1 ごみの適正な処理を推進します

人口減少と反比例し、一人当たりのごみ排出量は増加傾向にある。引き続きごみ処理の有料化について研究・検討していく。

ごみステーションの設置（新設及び修繕）に対する助成制度は、既存施設の老朽化に伴い、問い合わせや要望が多い事業であるため、引き続き実施していく。

2 ごみの減量化・分別・リサイクルを進めます

ごみ分別・再資源化の必要性について、改めて市民の意識啓発を行う。また、スマートフォンアプリや分別ガイド冊子「マナーは家庭から」の内容の充実を行い、判断が難しい物等の分別検索をしやすくし、ごみの減量化と分別の徹底を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
家庭系ごみの排出量（資源収集品を除く）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	597 g /人・日	600 g /人・日	485 g /人・日
ごみのリサイクル率	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	14.2%	13.9%	20.0%

基本方針 2	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 2	安心・安全なまちづくりを進めます

施策 1 生活安全対策の充実

1 地域防犯対策の充実を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響により活動が難しい状況にあるが、地域を見守る防犯カメラや高齢者を守る特殊詐欺対策機能付き電話機の設置について引き続き支援していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
犯罪認知件数 (刑法犯)	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	72 件	50 件	48 件

2 消費者保護対策の充実を図ります

毎年25件ほど消費生活相談があり、相談に適切に対応していくため職員のスキルアップに取り組むとともに、継続した啓発活動に取り組んでいく。

3 交通安全対策の充実を図ります

コロナ禍で活動が制限されるなか、規模縮小や感染対策を徹底したうえでの啓発活動・街頭查察等、現時点での出来る範囲での交通安全活動に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
交通事故件数 (総事故件数)	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	619 件	493 件	576 件

基本方針 2 美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち

政策 3 都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます

施策 1 都市機能の維持・確保

1 計画的な土地利用を推進します

各種法令や制度を遵守し運用をしているが、少子高齢化による人口減少により、空き家が目立ち始めている。適正な土地利用を図るために、施策等で関係課との連携を図り、土地の流動化を進めることで、定住促進につなげていく。

自然・歴史・文化と調和した、快適で魅力ある景観の保全、形成を図るため、高梁市景観計画及び高梁市景観条例を制定しているが、守るべき重点地区のエリアが広く、実情にマッチングしていないため、重点地区エリアの見直しが必要である。

また、計画的な土地利用を推進するためにも、土地取引の基礎となる地籍調査事業を継続的に進めしていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
地籍調査事業進捗率	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	95.4%	95.6%	96.2%

2 都市機能を維持します

都市計画区域において、都市機能や居住の誘導・集積を図っていくために「高梁市立地適正化計画」を令和4年3月31日に策定・公表した。今後はこの計画に基づき、都市機能誘導区域、居住誘導区域内に住宅、社会福祉、教育文化、商業施設等を緩やかに誘導し、人口密度を維持、持続可能なまちづくりに取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
都市計画道路整備延長	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	8,367m	8,367m	8,467m

3 住宅・宅地を整備します

子育て世帯向け住宅については、これまで6団地13戸を整備し、すべて入居済みとなっている。令和3年度は川上町内に木造2階建の戸建て住宅を1戸建設（令和4年5月完成）。建設費の上昇により財政負担が増加しているが、動向を見つめ引き続き整備を進める。これと並行し、オーダーメイド型の定住促進住宅の整備を進めていく。

分譲宅地については、これまで高梁地域、有漢地域、成羽地域に28団地341戸を整備し、ほぼ売却済（未売却は3区画のみ）。令和3年度は新規分譲（令和4年度販売予定）に向け、成羽町下原の鶴鳴保育園跡地の測量設計を行った。以降の整備は未定だが、民間分譲宅地の販売動向などを考慮しながら検討していく。

また、市営住宅等の維持管理については、令和3年度に策定した高梁市公営住宅等長寿命化計画の中で、耐用年数や安全性・入居率等を勘案し、改善・維持管理する住宅と募集停止・用途廃止とする住宅を決定した。今後は、改善が決定した住宅については年次計画で改善工事を行い、長寿命化を図っていく。また、募集停止・用途廃止が決定した住宅については、早急に募集停止を行い、適正な管理戸数に近づけていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
子育て支援住宅の建設戸数（累計）	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	13 戸	13 戸	17 戸
市営住宅管理戸数	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	1,021 戸	1,017 戸	927 戸

4 空き家対策に取り組みます

老朽危険空き家の除却費用助成制度は、ニーズも高く成果が上がっているため、引き続き取り組んでいく。また、近隣住民から対応要望がある老朽危険空き家については、所有者や相続人等に対応の依頼をとっているが、迅速な対応が望めない場合、周囲の住環境の安全等を図るために、代執行を含めた対応の検討を進める。

空き家情報バンク登録件数については、新型コロナウイルス感染症拡大による移動制限等により、空き家を持つ県外の所有者が帰省できない等の理由で登録数が減少したが、本年度に入って登録件数が急増しているため、物件登録を促進していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
空き家情報バンク新規登録物件数	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	65 件	29 件	70 件

施策 2 公共交通手段の確保

1 利用しやすく効率的な公共交通を維持するとともに、公共交通機関の利用促進を図ります

令和 2 年度に策定した「第 2 次高梁市地域公共交通網形成計画」に基づき、効率的な公共交通の維持に着手している。また、「タクシー利用助成制度」の実施等、交通空白地の解消に努めているところである。引き続き費用対効果を検証しながら、利用しやすく効率的な公共交通への見直しを進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
地域公共交通サービスに関する満足度 (アンケート調査の 5 段階評価平均点、 満足 5 、やや満足 4 、どちらでもない 3 、 やや不満 2 、不満 1)	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	3.09	毎年の調査なし	3.30

施策 3 社会インフラの充実

1 道路・橋梁の整備・管理に取り組みます

令和 3 年度で平成 30 年災害により被害を受けた道路、河川の復旧がおおむね完了したため、これまで遅延していた道路改良等について、財源確保に努めながら計画的に整備していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市道の規格改良率	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	28.3%	28.3%	28.6%
市道の舗装率	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	81.0%	81.0%	81.5%

2 上下水道施設の整備・管理に取り組みます

上水道施設・下水道施設について、引き続きアセットマネジメント計画及びストックマネジメント計画・耐水化計画に基づき適切な維持管理や耐震化を含めた計画的な更新に取り組んでいく。

アセットマネジメントに基づく維持管理とは別に、水道施設の老朽化による漏水修繕をはじめとし、通常の修繕工事も多発しており、独立採算を基本とする水道会計を圧迫してきている。このため、経営戦略に基づく継続的な経営分析を定期的に行い、適切な時期において相当の使用料改定を検討することも必要となっている。

経営改善に向けた主要な取組として有収率の改善を掲げており、新たな漏水の早期発見や、修繕とあわせて、民間を活用した計画的な漏水調査も継続して行っている。令和3年度は、対前年度比で有収率が低下しているが、和田・神崎・陰地配水区、成羽配水区等で夜間漏水調査・修繕を行ったことで、修繕後の月間有収率は、前年度の有収率を上回る数値にまで回復している。今後も予算の範囲内において、確実に管路の更新を図り、有収率を向上させていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
有収率（有収水量／総配水量）	令和2年度	令和3年度	令和7年度
※給水水量と料金として収入のあった水量の比率	77.1%	72.6%	83.0%
下水道処理区域内の水洗化率 (接続人口／処理区域内人口)	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	95.0%	96.0%	97.0%

基本方針 3	心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち
政策 1	健康で心豊かに暮らせる環境を整えます

施策 1 健康づくりの推進

1 生活習慣病予防を推進します

若い世代の受診率が低く、高齢化の影響に加え新型コロナの影響による受診控えの中、医師会と連携した受けやすい健診体制を整備しつつ、健診受診者に精密検査の受診勧奨や特定保健指導・生活改善の継続的な個別支援として糖尿病の重症化予防（岡山方式）にも取り組んでいる。

今後は、健康づくりへの関心を高め生活習慣改善とフレイル予防が個人の実践につながるよう、デジタル機器を活用した取組も進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
特定健診受診率	令和元年度	令和 2 年度	令和 7 年度
	29. 3%	25. 1%	60%
特定保健指導率	令和元年度	令和 2 年度	令和 7 年度
	28. 9%	37. 5%	60%
大腸がん検診受診率 50 歳～69 歳の男女※	平成 29 年度	令和元年度	令和 7 年度
	8. 4%	7. 6%	20%
敷地内全面禁煙の実施施設 (市有施設数)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	53	53	148

※【出典：厚生労働省 平成 29 年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）】

がん対策推進基本計画（平成 24 年 6 月 8 日閣議決定）に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢をそれぞれ定めている。

2 母子の健康づくり活動を推進します

子育て世代包括支援センターを中心として、妊娠期から子育て期までの不安軽減と育児支援により、安心して子どもを持ち、育てられる体制づくりに取り組んでいる。また、近年増加している外国人妊産婦や支援を必要とする幼児に向けて、継続した個別支援が行えるよう、関係機関と連携を図り、適切なサービスへつなげている。

今後も支援を必要とする対象者に対して、個々の状況を確認しながら必要なサービスへつなげられるよう、関係機関との連携を強化していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
生後 4 か月までの赤ちゃん訪問実施率	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	94. 5%	97. 5%	100%
1 歳 6 か月児健診受診率	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	98. 5%	93. 5%	100%

3 心の健康づくりを推進します

心の健康におけるポピュレーションアプローチとして、愛育委員会や民生委員会でメンタルヘルス研修会を実施した。また、愛育委員により地域住民に対しストレス解消法やストレスチェックアプリの紹介、相談先の周知を行った。自殺対策の人材育成としては、ヘルスボランティアや介護や医療従事者、行政職員を対象としたゲートキーパー養成講座を実施。（令和 2 年度の自殺者数は 5 名、過去 5 年

平均では5.8名)コロナ禍により若い世代の自殺が増加しているため、今後は若い世代への自殺予防対策も含め、啓発活動、養成講座を推進していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
講演会・健康教室実施回数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	20回	22回	30回
ゲートキーパー養成講座受講者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	179人	230人	500人

施策2 地域包括ケアシステムの推進

1 介護予防・重度化防止の推進を図ります

令和2年10月から「介護予防・日常生活支援総合事業」における通所型サービスB(住民主体による週1回の実施)が巨瀬町内でボランティア団体により運営されている。今後も他地域への通所型サービスB、通いの支援を行う通所付添サポート事業の増設を図るとともに、週1回の通いの場である元気なからだつくり隊活動を含め多様な通いの場の設置を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
通いの場数(週1回以上実施)	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	20箇所	21箇所	31箇所

2 認知症施策の充実を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響により認知症カフェが1箇所減ったが、令和3年度に新たに1箇所設置され9箇所となっている。今後は認知症カフェのない有漢・備中地域への設置をめざす。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
認知症カフェ設置数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	9箇所	9箇所	14箇所

3 生活支援体制の充実を図ります

令和3年度にボランティア養成講座を初めて開催し、16名の生活支援ボランティアを養成した。今後も毎年度養成講座を開催して、いきいき生活サポーターの増員と活動支援を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
生活支援ボランティア養成者数	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	0人	16人	100人

4 介護分野で働く専門職の養成・確保を図ります

介護福祉士をめざす学生に対して奨学金貸付等就学支援を実施している市内介護事業所に対し、その支援に関する経費を助成している。また、介護支援専門員についても、令和3年度から資格取得のための受験対策講座を開催し、市内で働く介護人材確保の充実を図る。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
介護福祉士養成修学支援事業による支援者の市内就職者数（延べ）	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	0人	4人	30人

施策3 地域医療体制の充実

1 持続可能な地域医療体制の充実を図ります

持続可能な地域医療体制の構築に向けて、奨学金制度の普及、看護師養成校や教育機関へのPR等の新規養成者に対する取組を継続するとともに、市内に就職した医療従事者の定着促進や離職者の復職支援に向けた取組を進めていく。また、へき地などで日常の医療を担っている公立診療所の在り方の検討を行っていく。

成羽病院においては、へき地医療拠点病院としての使命を全うしていくため、医師等の医療従事者の確保、並びに病院経営状況の改善に取り組んでいく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
看護師等奨学金貸付者等の市内就職者数（累計）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	14人	17人	26人
医療・介護従事者のスキルアップ研修会参加者数（延べ）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	486人	342人	490人

2 医療と介護の連携を推進します

医療と介護の連携した場面で質の高いサービスが提供できるよう、引き続き多職種合同の研修会を実施するとともに、より効率的な多職種間の情報共有方法を検討していく。

また、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階において望む場所での看取りを行えるよう在家療養支援体制を整備するとともに、人生会議（ACP）について、医療・介護の実務者と連携し、市民への普及・啓発を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
多職種連携研修会参加者数（延べ）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	140人	77人	140人

施策4 感染症対策の推進

1 感染症対策を推進します

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防していくため、国・県での制限や緩和措置等を見極めながら、啓発活動や対応に取り組んでいる。今後の感染拡大状況により、ワクチン接種と感染対策の両輪を円滑に進めていくための体制整備を検討していく。

感染症全般では、予防のための基本的生活習慣の啓発と予防接種の接種勧奨を行っている。コロナワクチンの接種が始まったことで、その他の予防接種についても意識が高まり、感染予防のために予防接種の必要性と効果が再確認されている。一方では、結核検診は新型コロナウイルス感染症の拡大による受診控えもみられる。世界から感染症が無くなる事がないので、今後も継続して感染予防のための対策を市民に周知し、受診率、接種率の向上をめざしていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
高齢者のインフルエンザ 予防接種率	令和元年度	令和3 年度	令和 7 年度
	58%	58%	70%
B C G 予防接種率	令和元年度	令和3 年度	令和 7 年度
	100%	100%	100%
麻しん・風しん混合 2 期 予防接種率	令和元年度	令和3 年度	令和 7 年度
	97. 12%	94. 7%	100%

基本方針3 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち

政策2 安心して子どもが生まれ育つことができる環境を整えます

施策1 子育て支援の充実

1 子どもの生きる力を育むための地域づくりを支援します

コロナ禍でイベントや団体活動が停滞し、在宅生活が長くなっていることから、ファミリー・サポートセンターの延利用人数は伸びているものの、地域での子育ての活動やイベントが停滞している。

今後、イベント等の再開を通じて、地域での子育て活動の活性化に向けた啓発に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
ファミリー・サポートセンターの提供会員・両方会員数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	28人	29人	42人

2 切れ目のない子育て支援の充実を図ります

出産から子育てまで支援していく中で、個別の不安や相談に対応していくよう、専門職の配置やSNSの活用を検討し、相談しやすい体制の整備を図るとともに、切れ目のない支援に向けて、保健と福祉の連携による支援に取り組んでいく。また、男性の育児休暇取得を促進する国の制度の改正を踏まえ、企業での育児休暇や子育てへの理解を深めてもらう取組を進め、仕事と子育ての両立がしやすい環境づくりに取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
健診未受診者の把握率	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	100%	100%	100%
子育て支援センター利用率 ※0歳～2歳児の登録者割合	令和元年度 43%	令和3年度 32%	令和7年度 50%

3 教育保育サービスの環境整備及び質の充実を図ります

幼稚園の園児数は年々減少しており、小規模園では、集団活動に課題が生じている。教育・保育の質を向上させるためにも、今後の幼稚園について方向性を示していく。

認定こども園の整備については、高梁こども園（仮称・公立）について事業着手しているが、コロナ禍及びウクライナ情勢の物価高騰により建設費の大幅な増額が見込まれるため、コスト面も考慮しながら「子どもの夢が広がるこども園」をめざし、事業費の検討を行っていく。

学童保育については、有資格者と巡回指導の回数を増やし支援員のレベル向上を図ることや、学校との連携強化により保育の充実を図っていく。また、一時預かりや病後児保育など他の保育については、利用者数が伸びていないため、周知広報の徹底に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
認定こども園の数	令和元年度 3箇所	令和3年度 3箇所	令和7年度 5箇所
一時預かり実施施設数	令和元年度 1箇所	令和3年度 1箇所	令和7年度 3箇所
学童保育支援員資格保有率	令和元年度 47%	令和3年度 51%	令和7年度 70%

4 子育てに悩みを抱える家庭をサポートします

子どもたちが安心して成長できるように関係機関との密接な連携を継続するため、教員・民生委員等への研修・啓発に引き続き取り組む。関係機関からの情報は入りやすくなってきているが、今後はSNSの活用による子どもが気軽に相談できる相談体制の構築を検討するとともに、その周知を図っていく。

また、ひとり親家庭の経済的自立、ひとり親の就労能力の資質向上のための高等職業訓練促進給付金の周知を図り、資格取得を推進する。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
虐待等についての啓発事業回数 ※民生委員会出席・学校訪問・広報活動	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	32回	45回	50回
ひとり親就労相談による就職率	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	36%	66%	50%

基本方針3	心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち
政策3	みんなで支え合い助け合う地域福祉活動を進めます

施策1 障害者（児） 福祉の充実

1 障害者（児）の生活を支援します

緊急時の対応や体験の場、障害者が地域で活躍できる場や役割の構築、地域全体の理解促進を促しながら、高梁市として地域で障害者とその家族が安心して生活ができるための体制整備が求められる。地域活動支援センターのI型や地域生活支援拠点事業等の検討を行う中で、本市にとって真に必要な機能を一体的に考えながら共生のまちづくりを進めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
地域活動支援センターI型及び地域生活支援拠点の設置数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	0箇所	0箇所	1箇所
一般就労移行者数（年度末人数）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	4人	4人	8人

2 希望に即した障害福祉サービスの充実を図ります

障害者の自立生活の維持や社会参加のため、不足しているサービスのニーズを把握し、希望に即した利用ができるよう供給体制の充実が求められる。法人や事業所への働きかけや理解を促すとともに、障害者のニーズに応じた情報提供や相談体制が取れるよう相談支援事業の充実を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
訪問系サービス（居宅介護）利用者数（月平均）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	19人	18人	35人

施策2 高齢者福祉の充実

1 高齢者の生きがいづくりと活躍の機会を支援します

シニア世代のライフスタイルの多様化や企業の再雇用対策により退職後のシニアの働き方、求人の選択肢が広がる中で、シルバー人材センターが地域貢献、生きがいの場として選ばれるには、働きやすさのメリットや事故補償などの充実が求められる。

シルバー人材センターとしても安定的に事業を継続するため、求められる仕事量に対応できる会員の確保が不可欠であり、積極的な広報活動を続けていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
シルバー人材センター事業 就労人数（延べ）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	13,966人	13,369人	15,500人

2 高齢者福祉サービスを推進します

福祉移送サービスは、住み慣れた地域で自立した生活を継続するために不可欠な交通手段として定着している。ドライバーの確保、また高齢化に伴う事故の恐れもあり、安全に輸送できる車両の更新が求められる。

生きがいデイサービスやミニデイサービスの実施により、高齢者の家での閉じこもりを防止とともに、社会参加や生きがいづくりにもつながっている。その一方で、ミニデイサービスは、各地区のボランティアを中心に実施しているが、ボランティアの高齢化が進んでいる状況にあるため、持続的で安定的な運営をめざし、委託先の高梁市社会福祉協議会と連携を密にして事業に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
福祉移送サービス事業	令和元年度	令和3年度	令和7年度
利用人数（延べ）	3,944人	4,350人	4,000人
健やか高齢者生きがい支援事業	令和元年度	令和3年度	令和7年度
利用人数（延べ）	5,164人	3,087人	5,400人

施策3 地域福祉活動の推進

1 地域の福祉活動を推進します

成年後見制度の利用促進及び対応強化の推進役となる中核的な機関として令和3年4月1日に高梁市権利擁護センターを設置し、運営を高梁市社会福祉協議会へ委託している。相談件数は、策定時の現状値を上回っており成年後見制度による支援を必要とする人が増加し需要が高まる中で、後見人の担い手不足という課題が出てきている。その課題を解決するため、専門職の後見人に代わって市民による後見人の養成に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
中核機関（権利擁護センター）における相談件数（延べ）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	179件	278件	200件

※現状値は中核機関設置前の相談件数

2 低所得者の生活を支援します

令和3年度から就労支援員を任用したことにより、ケースワーカーと連携した就労支援が可能となった。就労率は上昇しているが、体調不良等により就労困難なケースも存在するため、健康管理と合わせた支援が必要となっている。また、コロナ禍で求人が減少していることから就労場所の新規開拓も不可欠である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
就労支援による被保護者就労者率	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	23%	33%	30%

基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち

政策1 心身ともにたくましい子どもが育つ学校教育を進めます

施策1 学校教育の充実

1 確かな学力の育成を図ります

協働学習やA I ドリル等アプリケーションの整備が完了した。また、教員対象の活用研修や好事例の共有等を行った。令和3年度で、I C Tを活用した指導を行っていると回答した教員の割合は90%を超えた。今後は、一人一台端末をいかに効果的に児童生徒の学力向上へつなげていくかが課題である。そこで、令和4年は、全教職員を対象とした研修会や学力向上研究会での成果の共有を行い、教員の指導力向上をめざす。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
全国学力・学習状況調査における平均正答率との差	令和元年度 小…公立全国平均 -0.5 中…公立全国平均 -1.0	令和3年度 小…公立全国平均 -3.9 中…公立全国平均 -0.2	令和7年度 小…公立全国平均 +1.0 中…公立全国平均 +1.0
I C Tを活用した指導・支援を日常的に行っている教員の割合	令和2年度 69.7%	令和3年度 91.5%	令和7年度 100%
校務支援ソフトのメニューを有効に活用している教員の割合	令和2年度 令和3年度より運用	令和3年度 —	令和7年度 100%

2 個に応じたきめ細やかな指導体制の充実を図ります

全教職員の特別支援教育に係る専門性を高めるため、初級・中級・上級3段階の研修会を実施した。また、特別支援学級担任の特別支援学校免許状の取得を推奨している。さらに、令和4年度より通級指導教室に発達障害のある児童の受け入れを可能とした。今後は、児童生徒の実態に応じた適切な学びの場が選択できるよう、特別支援学級等の入級基準や手続き等について、学校関係者や保護者、関係機関等への周知を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
小中学校特別支援学級担任の特別支援学校教諭免許保有率	令和元年度 46%	令和3年度 42.3%	令和7年度 100%

3 豊かな心と健やかな体を育てます

多様な価値観を受け入れるには、積極的に他者と関わることが必要である。令和3年度は、コロナ禍のため交流がしにくく状況であったが、タブレットを積極的に活用し、オンラインによる交流を幅広く展開することができた。一方、実体験を伴う活動ができにくい状況は続いている。道徳教育と各教科や特別活動等との関連を図り、限られた時間や制限の中で、心の教育の充実を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	小6…81.2%	小6…88.1%	小6…100%
	中3…84.6%	中3…83.2%	中3…100%
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	小6…96.0%	小6…97.6%	小6…100%
	中3…97.0%	中3…95.2%	中3…100%
「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	小6…84.6%	小6…89.2%	小6…100%
	中3…72.7%	中3…78.9%	中3…100%

4 地域との連携を活かした教育を進めます

コミュニティスクール（CS）の充実に向け、各校の管理職を対象にCSマイスターを招聘した研修会を実施した。CSの活動については、各校の運営協議会で質・量ともにバラつきが見られる。令和4年度より、市教育委員会事務局参与、社会教育課参事（CSマイスター）が配置され、各運営協議会に対して支援を行うことで、内容の充実を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
特色ある学校づくりに取り組む小中高等学校の割合	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	令和3年度より開始	43.5%	90%
「今住んでいる地域の行事に参加している」児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	小6…77.7%	小6…81.6%	小6…100%
	中3…68.1%	中3…62.7%	中3…95.0%

施策2 教育体制・環境の整備

1 適切な学校配置と一貫した教育体制づくりをめざします

令和3年度から高梁市独自の学級編制を小学校1学級30人以下に引き下げたところ、きめ細やかな指導等の実現や教室のゆとりの確保ができた。令和4年度は中学校での学級編制の引き下げを行い、教育効果を向上させたい。また、全ての学校園において、「高梁市の教育全体構想図」「たかはしへーション」の内容をカリキュラムに位置付け実施している。今後も引き続き、校区の校園長会や学校運営協議会等においてめざす子ども像を共有し、具体的な実践を進めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
「近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」学校の割合（全国学力・学習状況調査より）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	小…60.0%	小…46.2%	小…85.0%
	中…83.3%	中…100%	中…100%

2 安心・安全な給食の提供と食育を推進します

学校給食での市内産品の使用率を高めるため、市内関係機関との連携を図ることで使用率が上昇してきている。また、栄養教諭並びに学校栄養職員と連携し、「高梁味めぐり」や「わたしたちが考えた給食献立」により、食への関心を高め、給食を生きた教材として活用している。コロナ禍により黙食など様々な制限がある中で、今後も関係機関と連携しながら、地域食材を確保し、安心安全な給食を提供するとともに、子どもたちに食の大切さ等を伝えていく。今後想定される学校・園の再編も含め、学校給食施設の今後の在り方について方向性を見出していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
学校給食での市内産品の使用率※	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	14.9%	16.6%	50.0%

※ 全使用品目に対する市内産分の延べ使用回数割合を年2回(各1週間)集計したもの

3 学校施設・設備の充実を図ります

学校におけるICT環境については、1人1台端末、そして普通教室への電子黒板の配備が完了するとともに、特別教室においても概ね配置できている状況で、環境整備がかなり図られている。

施設整備については、コロナ禍及び施設老朽化に対応し、利用頻度が高い特別教室への空調設備の整備及びトイレの洋式化を順次進めしており、今後も衛生管理という面から重要な整備と位置付け進めしていく。学校施設の中には、老朽化が進んでいる施設もあり、限られた予算の中で対応していく必要はあるが、学校施設は子どもたちの学習・生活の場として、大半の時間を過ごす場所であるので、将来にわたって充実した教育活動が行えるよう長寿命化計画に併せ、環境整備を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
教室への電子黒板等の設置率	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	22.3%	75.1%	100%
空調設備の特別教室整備率	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	63.0%	68.5%	85.0%
トイレの洋式化率	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	46.7%	50.1%	70.0%

基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち

政策2 生涯学習の機会を広げ文化・スポーツの振興を図ります

施策1 生涯学習の推進

1 生涯学習活動を推進します

新型コロナウイルス感染症の拡大により様々な制限がある中で各公民館において工夫しながら、特色ある活動や地域のニーズに合わせた公民館講座を実施し、地域住民の交流や幅広い学習活動の場が提供できた。また、子どもたちの目標や将来の夢を広げる機会の提供や市内の魅力を発見するような体験活動など、コロナ禍により従来のような実施が困難になっている事業もあったが、可能な範囲で企画を行っている。

引き続き「新しい生活様式」に対応した事業実施について検討し、誰もが楽しみ触れ合える生涯学習活動を推進する。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
公民館講座受講者数（延べ）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	17,880人	7,304人	20,000人
青少年の体験講座等の参加者数（延べ）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	1,839人	1,474人	2,000人

2 社会教育施設の充実を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、コロナ禍での図書館における役割を考え実施可能な事業に取り組みながら、目標の「図書館主催の講座等の参加者数（延べ）」は達成できた。また、老朽化した社会教育施設の整備等も行き利便性の向上を図った。今後も設備改修等で快適な施設環境を整えるとともに、指定管理者との連携を密にしながら、市民のニーズを捉えたサービスの充実に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
図書館主催の講座等の参加者数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	5,953人	10,848人	7,000人
図書館(室)の市民一人当たり貸出冊数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	7.4冊	7.5冊	10冊

3 地域文化・芸術活動の振興を図ります

市内文化協会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって文化祭の開催を断念した団体もあるが、可能な範囲で活動を行っている。会員の高齢化に加えて近年の社会情勢により活動の継続に困難を抱える文化・芸術諸団体に対し、今後もよりよい支援のあり方を検討し、実情にあった支援を行う。

また、近年重視される文化財の活用の一環として、未指定のものも含めて地域の文化財の価値を掘り起こし、歴史美術館をはじめとした展示施設での展示に反映させ、地域の歴史について教育普及を図り、本市への愛着心や誇りを醸成していく。

市民の関心と学習意欲に応えるような文化講座や芸術・文化の鑑賞機会を提供するため、引き続き様々な企画を実施するとともにニーズの把握に努めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
文化連盟・文化協会主催の文化祭等の入場者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	3,595人	1,576人	3,700人
歴史美術館入館者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	※1,663人	2,626人	3,000人
成羽美術館入館者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	17,851人	17,587人	20,000人
吉備川上ふれあい漫画美術館入館者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	10,848人	7,658人	12,000人
山田方谷記念館入館者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	4,936人	1,988人	5,000人

※令和元年度は、収蔵庫空調改修工事により上半期を休館としたため、通常より減少している。

施策2 文化財の保存と活用

1 文化財の保護・保存と有効活用を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響により、公開施設等への入館者数は減少し、また備中神楽等の民俗芸能に関しては、活動制限等により活動が低迷しているが、文化財の保存における個別事業（史跡整備、文化財調査、天然記念物管理など）は着実に計画どおり実施できている。旧吹屋小学校の保存修理については、令和3年度末に竣工を迎えた。

今後については、公開施設においてはアフターコロナを見据えるとともに、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら、以前実施していた特別公開などを再開し、新たに公開を迎えた旧吹屋小学校においては、日本遺産の情報発信の拠点として日本遺産センターを整備するとともに、各種イベントなど積極的な活用を図っていく。また他の文化財においても、文化財の保存を意識しながら、活用を図っていく方法を模索する必要がある。さらに、各種事業、文化財の調査等は継続して実施し、必要に応じて現地説明会や講座等を実施するなど、文化財に触れる機会を提供する。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
国指定文化財備中松山城入城者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	99,267人	45,909人	120,000人
臥牛山のサル生息数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	145頭	138頭	135頭

2 歴史を活かしたまちづくりを推進します

歴史的風致の維持向上にはハード整備に限らず、ソフト面の取組も欠かせない。長引くコロナ禍で、民俗芸能の保存継承活動をはじめ様々な事業に支障が生じていることがうかがえるが、現在はアフターコロナを見据えた種まきの時期と位置付け、行政と地域住民、また民間事業者が一体となって取組を進めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
歴史的町並み保存地区整備事業実施件数（累計）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	66 件	74 件	78 件
吹屋伝統的建造物群保存地区保存修理事業実施件数（累計）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	146 件	151 件	160 件
旧片山家住宅入館者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	8,114 人	7,182 人	9,800 人
旧吹屋小学校 日本遺産センター(仮称)入場者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	—	—	25,000 人

施策3 スポーツの振興

1 ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します

コロナ禍において、スポーツ関係団体の活動自粛や大会中止など、影響が大きい場面が多くあった。その中でも、開催方法を工夫しながら大会を開いたり、関係団体との連携を密にとって活動したりすることで、生涯スポーツの推進が図れた。今後は、関係団体への運営補助の方法について議論を深めながら更に連携を強化し、多くの市民が身近にスポーツを感じ、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現をめざしていく。

また、ライフステージに応じたスポーツ活動推進の観点から、中学生のスポーツ活動に親しむ機会を確保するため、地域や社会競技団体等が受け皿となれるよう、スポーツ環境の整備に努めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
総合型地域スポーツクラブの加入者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	208 人	154 人	230 人

2 スポーツを通じた青少年の育成を図ります

コロナ禍の影響により、子どもたちのスポーツ活動の機会が減ったのは間違いないが、全国大会等出場者への激励金の交付や実技講習会などを通して、意欲面の向上や競技力の向上にはある程度寄与できた。今後も資金面・機会創出といった従前の取組は維持しつつ、スポーツ関係団体や学校との連携を強化し、スポーツを通じた青少年の育成方法について、共に探っていきたい。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
小学校（5年生）・中学校（2年生） 体力テストのA B段階獲得率	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	48.7%	51.9%	50.0%

3 スポーツ施設の充実と広域的なスポーツを推進します

コロナ禍の影響により、「広域的」「交流」という視点での取組が非常に厳しい状況が続いた。自転車競技イベントが2年連続の中止となったのは残念であったが、Withコロナを意識した新しい自転車活用イベントが開催できた。今後は、施設面の改修整備も引き続き進め、民間宿泊施設との連携や施設を拠点としたスポーツ交流の場づくり、新設サイクリングルートの活用など、コロナ禍でも持続可能なスポーツ交流の促進を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市外との交流を含む広域的なスポーツ機会への参加者数	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	15,000 人	6,000 人	16,000 人
市外からのスポーツ合宿者受入人数	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	1,600 人	320 人	1,800 人

基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち

政策3 人権を大切にする共生のまちづくりを進めます

施策1 人権尊重・男女共同参画社会の実現

1 人権が尊重される社会の実現に取り組みます

全3回の講演会を計画したが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止した。令和3年度に予定していた講座は、そのまま令和4年度に実施予定である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
人権問題学習講座参加者数 (延べ)	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	634人	0人	700人

2 男女共同参画社会の実現に取り組みます

男女共同参画に向けた取組は、関係各課での取組も関わってくる。第3次男女共同参画基本計画の数値目標達成のため、部会等で各課の事業内容を把握しながら関係各課と連携して取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
審議会・委員会等における女性委員の割合	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	20.7%	23.6%	40%
市民意識調査の「男は仕事、女は家庭」という考え方について「同感しない」と回答した割合	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	76.9%	毎年調査なし	100%

施策2 多文化共生社会の実現

1 國際感覚豊かな人材を育成します

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、国際姉妹都市トロイ市やフランス・アンペール高校との交流事業が実施できない状況にあるため、オンライン等での交流により友好関係を保ちつつ、コロナ終息後の交流再開に向けた準備を進めている。今後、新型コロナウイルス感染症の終息状況を見ながら、大学のあるまちの強みを活かし、市内の子ども達と留学生の交流事業にも取り組んでいく。

2 多文化共生社会の実現に取り組みます

令和3年度から本格的に実施している日本語教室は、外国人市民にとって交流・相談や異文化理解の場にもなっている。持続可能な多文化共生の推進体制を構築していくため、国際交流担当の地域おこし協力隊の配置や、市民ボランティアの育成・確保、企業との連携等を図っていく必要がある。

また、新型コロナウイルス感染症の終息状況を見ながら、地域・大学・企業等と連携し交流事業の再開に向け取組を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
市国際交流協議会が主催（支援）する交流イベントへの外国人市民参加者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	46人	16人	150人

市国際交流協議会の企業会員数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	0	0	6
ボランティア通訳登録者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	4人	10人	10人

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

政策 1 市民が主役のまちづくりを進めます

施策 1 市民が主役のまちづくりの推進

1 協働が進む環境を整えます

行政だけでは解決できない、地域のさまざまな課題解決や魅力あるまちづくりに向け、市民活動団体等が自主的・主体的に企画実施する事業や、公共の利益につながる事業に対して補助金を交付している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、市民団体による活動が難しい状況が続いているが、市民との協働により、魅力あるまちづくりに向けた活動を引き続き支援していく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
市民提案型事業の取組団体数	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	4 団体	6 団体	6 团体

2 主体的な住民活動を推進します

高梁市まちづくり協議会や連絡会等により、各地域において効果的に地域振興交付金を活用しながら、まちづくり活動の意識高揚や全市的なまちづくり事業の推進に寄与していく。

また、新型コロナウイルスの感染防止対策をとりながら、まちづくり研修会等を再開し、各地域との連携強化を図っていく。

3 市民団体の育成と連携を図ります

高梁市内の市民団体の育成のため、補助金の交付や研修会の実施、必要な事業を進めるなかで、地域の人材の発掘や積極的な活用に努めていく。

施策 2 公聴広報の推進

1 公聴活動を推進します

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での意見聴取の場が持ちにくい状況が続いているが、今後は感染防止対策をとったうえで再開していくとともに、ＩＣＴを活用した意見募集やアンケート調査など、新たな公聴の仕組みづくりを進めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
市長と語ろう会開催回数	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	3 回	1 回	6 回

2 積極的に行政情報を提供します

広報紙、ホームページ、行政放送、ＳＮＳ（Twitter、YouTube など）等、多様なツールにより幅広い世代に向けた情報発信に取り組んでいるが、依然と若い世代に対しては市からの情報が届きにくいという課題がある。各世代に対して最も効果的な手法により情報発信していくため、情報発信ツールごとに発信内容や方法の見直しを進めていく。

また、本市の魅力や価値を市内外に戦略的に発信し、本市の認知度向上やシビックプライドの醸成を図っていくため、令和4年3月に策定した「高梁市シティプロモーション戦略」に基づき、情報発信の強化に取り組んでいく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定期	実績値	目標値
市ウェブサイトの年間閲覧件数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	239万件	353万件	300万件

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち**政策 2 産学官民連携のまちづくりを進めます****施策 1 学園文化都市づくりの推進****1 魅力ある大学づくりと大学のまちを発信します**

コロナ禍における学生と地域との交流活動の減少は、学生の本市への愛着に影響し、ひいては定住意識等にも影響するため、令和4年度より学生を対象として市内の魅力や価値を学び、発信する「高梁まるごとキャンパス事業」に取り組んでいる。

学生数の減少に歯止めをかけるため、吉備国際大学ではブランドビジョンの策定や情報発信の強化などブランディングに取り組んでおり、こうした魅力ある大学づくりに向けた取組を、学園文化都市づくり協議会が中心となって応援していく。

また、学生確保に向けた従来からの支援制度を見直し、令和4年度より大学の主体的な取組を支援するための制度を創設。引き続き大学と連携を密にして魅力ある大学づくりに向けた取組を後押ししていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
吉備国際大学学生の市内就職者数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	7人	7人	34人

2 産学官民の連携を強化します

大学を中心として関係団体で協議を進めてきた「地域連携プラットフォーム（仮称）」の設立が頓挫したため、産学官の連携強化に向けた新たな体制整備を模索している状況にある。一方で、高校生・大学生等が地域の魅力や課題について考え、提案・発信する取組が生まれており、また、市民主体の取組の中で学生と地域をつなぐコーディネーター人材の育成が図られている。今後はこうしたキーパーソンや関係団体との連携により、教育、産業、福祉など様々な分野において高校・大学との連携を深め、人材育成と地域課題解決につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
『地域連携プラットフォーム（仮称）』参画企業・団体等との共同事業数	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	0件	0件	4件

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

政策 3 持続可能な行財政運営を行います

施策 1 時代に対応した行政経営の確立

1 行政サービス改革を進めます

本年度より総合計画（総合戦略）の施策マネジメントに取り組んでおり、内部評価・外部評価を踏まえて必要な改善を図り、次年度予算へ反映していくP D C Aサイクルの定着を図ることで、計画の着実な推進をめざす。

大手民間企業等の知見やノウハウ、ネットワークを活用することで、市民サービスの維持向上につなげるため、保険会社等との包括連携協定の締結を積極的に進めており、「健幸都市たかはし」の実現に向けた公民連携・協働事業に取り組んでいく。

2 健全な財政運営を進めます

現在、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、世界的な原油などのエネルギー・諸資材の高騰を受け、建築資材等が高騰しており、今後数年の間に大規模事業を複数抱えている本市にとって、その影響は非常に懸念されている。こうしたことから、今後の財政見通しが非常に重要となってくるため、令和3年度決算と総合計画のローリングの内容を精査し、早急に財政見通しを作成し、その内容を把握したうえで、今後の健全な財政運営に向けた必要な取組を検討していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
市税現年分収納率	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	98.9%	99.1%	99.1%
財政運営の健全化	令和元年度 経常収支比率 96.3% 実質公債費比率 12.6% 将来負担比率 80.8%	令和3年度 経常収支比率 91.0% 実質公債費比率 11.9% 将来負担比率 70.9%	令和7年度 経常収支比率 96.0% 実質公債費比率 13.7% 将来負担比率 79.0%

3 公共施設等の適正管理と市有財産の有効活用を進めます

平成28年度に策定した高梁市公共施設等総合管理計画では、人口減少及び高齢化に伴う財政難を背景に、公共施設等の適正配置を進めるとともに、効率的な管理や長寿命化対策や積極的な貸付、売却などを行っていくこととしている。計画策定期から数年経った現在でも財政難については依然として課題となっていることから、公共施設再編計画（仮称）の策定等により、将来的な財政負担の軽減・平準化に努めている。再編を進めるにあたり、施設を利用している市民との合意形成には困難を極めると予想されるため、協議を重ね、市民の理解を得ながら進めていく。

4 職員の能力向上と能力を活かせる仕組みをつくります

職員においては研修や派遣などにより知識や技術の向上に努めている一方で、土木技術職などの専門職の確保ができていないため人材不足となっている。効率的な組織運営に専門職は必要であり、今後も採用を強化するとともに年度中途採用の実施をすることで人材確保に努めていく。

横断的政策1 人口減少対策に取り組みます

施策1 移住・定住の促進

1 シティプロモーションを推進します

令和3年度において、今後のシティプロモーションの取組方針を定めた「高梁市シティプロモーション戦略」を策定。この戦略では、本市の認知度の向上、交流・関係人口の拡大、移住の促進、シビックプライドの醸成に向けた一体的な推進と、メインターゲットに対して訴求力の高いプロモーションを展開していくこととしており、令和4年度より具体的な取組に着手している。

今後、この戦略に基づき中長期的な視点で継続的なプロモーション活動を展開していくため、PDCAサイクルにより進行管理に取り組んでいく。

2 関係人口を拡大します

高梁市の観光振興及び関係人口の拡大を図ることを目的として、「高梁ist」を募集しており、市から月1回以上のメール送信による情報提供を行うことで、高梁の魅力の全国発信に協力いただいている。今後はSNS活用した発信強化を図っていく。

また、企業版ふるさと納税の募集のため、企業とのマッチング会への参加や働きかけを行い、企業版ふるさと納税を契機とした関係人口の創出・拡大につなげるとともに、近年、飛躍的に増加している本市へのふるさと納税寄附者への情報発信を強化し、交流・関係人口へとつなげていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定期	実績値	目標値
ふるさと納税の件数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	3,744件	15,312件	20,000件

3 都市部からの人の流れを拡大します

コロナ禍により、オンライン形式という新たな手法での移住相談で対応している。今後は、移住サポート体制の強化に向けて、不動産業者や建築業者なども含めて、よりきめ細かい移住サポートができるよう、新しい支援組織の体制整備を研究していく。

また、コロナ禍で空き家情報バンクに係る相談も停滞していたが、令和4年度よりコロナ前のような登録・成約の動きが出始めている。今後は新たな物件の掘り起こしが課題となっており、消防団や民生委員児童委員等への協力を依頼しながら、物件の登録促進と流動化を推進していく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定期	実績値	目標値
空き家情報バンク制度成約件数のうち、 市外からの移住につながった件数	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	31件	20件	40件
地域おこし協力隊等外部人材の活用人数 (国県制度等によるもの)	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	3人	6人	8人

4 若い世代の定住促進を強化します

若い世代の定住促進に向けては、アンケート調査等から住宅取得支援に対するニーズが高いことから、子育て世帯等の住宅の新築・取得・リフォームに対する助成、新婚世帯に対する家賃助成、分譲地の造成や子育て世帯向け賃貸住宅の整備など、住宅支援施策の充実に取り組んでいる。今後もオーダー

一メイド型定住促進住宅の整備など、若い世代のニーズにマッチした新たな住宅対策を模索していく。

また、若い世代の市内就職については、就職面接会への参加者（求職者）自体が少ない状況にあり人材不足が深刻化している。新規学卒者やUターンの就職につながるよう、市内の学生やその保護者に向けて、産官学の連携により情報発信の強化に取り組み、企業訪問バスツアーや企業説明会の開催、インターン事業等を積極的に進めていく。

本市では、以前から子育て支援や定住施策の充実に取り組んできたが、従来からの広報手段ではターゲットとする若い世代に情報が届きにくい状況にあるため、若い世代の関心を引き、情報が届くよう発信内容や手法の見直しを進めていく。

5 コミュニティの機能維持に努めます

過疎と高齢化が進行する中で、コミュニティでの支え合い助け合う取組を推進してきたが、長期化するコロナ禍にあって、コミュニティ活動が制限され、地域力低下の加速化が懸念される。今後はWithコロナに対応したコミュニティ活動の再開を後押ししていく。住民の自助・共助では集落機能を維持することが困難となった地域にあっては、その実情を把握のうえ、公助によって安心・安全な暮らしの確保に取り組んでいく必要がある。

横断的政策2 災害に強いまちをつくります

施策1 防災対策の強化

1 地域防災力の強化を図ります

平成30年7月豪雨以降も各地で災害が激甚・頻発化する中、災害時の地域住民の連携や協力体制の重要性がさらに高まっていることから、高梁市地域防災力向上委員会を中心に高梁市地域防災力向上の目標・行動計画を令和3年度に策定し、自主防災力強化支援を継続的に進めている。

今後も自主防災組織結成に係る負担軽減を図りつつ、自主防災組織の結成・活動促進を推進する。

また、市内の自主防災組織および防災士による「高梁市防災士・自主防災組織等連絡会」を令和3年度に結成し、連絡会を通じて交流と連携を進めることで防災意識の向上を図りつつ、自主防災組織等における防災士の資格取得の促進を継続的に図る。

さらに、消防団員の勧誘及び感染防止対策を行いながら団員の資質向上をめざした訓練に引き続き取り組み、地域防災力の向上を図る。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定期	実績値	目標値
地域自主防災組織のカバー率	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	22%	36%	100%
防災士資格取得者数（累計）	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	40人	69人	80人

2 防災学習の推進を図ります

市民の防災意識の向上を図るには、粘り強く継続的に防災学習等を行うことが必要であり、小・中学校を中心とした防災学習に加え、自主防災組織や各種団体等地域からの要請のもと、感染症対策を講じながら出前講座や防災学習を進め、若年層から高齢者まで防災意識の一層の高揚に努める。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定期	実績値	目標値
マイ・タイムライン講習会開催数	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	2回	8回	12回

3 災害に対し強靭なまちづくりを進めます

大規模な災害が発生した場合においても被害を最小限に抑え、迅速な復旧・復興を図るためにハード対策に加えてソフト対策を進めていく必要がある。

ハード対策では、高梁市国土強靭化計画に基づき、道路・河川等の整備、ため池の統廃合、内水排除ポンプ場の整備などを計画的に進めている。また、強靭なまちづくりに欠かせない高梁川・成羽川の改修・整備については、国・県に継続的に要望するとともに、必要な連携を進めることで促進を図っている。引き続き対策を進めて防災・減災機能の向上を図っていく。

ロック塀等の耐震診断・除却については、補助事業を実施し「高梁市耐震改修促進計画」に基づき広報紙やホームページで診断・除却の啓発及び補助事業の周知を図っている。しかし、市民からの相談が少ない状況のため、市民の関心を高める取組を検討していく。また、大規模盛土造成地が県の第一次スクリーニングで9箇所抽出されたため、令和4～7年度にかけて詳細調査を実施していく。

ソフト対策では、防災情報の充実を図るべく、防災マップを令和3年度に更新し全戸配布を行うとともに、様々な媒体を活用して広報を行った。引き続き説明動画を制作するなど、防災マップの活用促進を図ることで、普段からの備えの強化を図る。また、河川（ダム）監視カメラ14台を令和3年度までに整備し、市ホームページやケーブルテレビを通じて配信を行うなど、防災情報の充実に取り組むとともに、市ホームページ、高梁いんふお、防災メール、ツイッター、防災ラジオなど、防災情報伝達

手段の多様化を図っており、今後も広報等を通じて地域住民の活用促進を図る。

防災訓練については、コロナ禍もあり令和3年度まで市職員及び関係機関のみの訓練実施としていたが、今後は感染症対策を十分に行なったうえで、地域住民も参加した防災訓練を実施していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
公式ツイッターフォロワー数	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	400件	690件	2,500件
防災訓練参加者数（5年間累計）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	200人	230人	1,500人
危険なブロック塀等の解体撤去の件数（累計）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	0件	0件	50件
大規模盛土造成地の安全把握調査（第2次スクリーニング）	令和元年度	令和3年度	令和7年度
	0箇所	0件	9箇所

4 国民保護計画を推進します

国民保護発動時の保護体制確立を図るため、高梁いんふお、防災メール、ツイッター、防災ラジオ、ケーブルテレビなどによる国民保護情報（Jアラート）の伝達手段の多様化を図った。今後も伝達手段の確保及び維持管理に万全を期し、住民参加の防災訓練の検討を進めていく。

5 消防、救急、救助体制を強化します

コロナ禍で普通救命講習会や職員研修の中止もあったが、引き続き感染防止対策をとりながら職員及び市民のレベルアップを図っていく。

設計段階にある新消防庁舎は、コロナ禍及びウクライナ情勢の物価高騰により建設費の大幅な増額が見込まれるため、コスト面も考慮しながら、より機能的な庁舎となるよう精査を進めていく。

また、火災予防に関し査察は直接指導が行える有効な手段であるため、感染防止対策をとりながら消防用設備等の維持管理や防火管理体制等の指導に引き続き取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
普通救命講習受講者	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	300人	63人	400人
防火対象物及び危険物施設査察率（査察件数／査察計画数）	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	47%	29%	100%

6 災害時避難行動要支援者への支援体制を強化します

高齢者等要配慮者の災害時の逃げ遅れ対策は全国的な喫緊の課題となっているため、災害時避難行動要支援者システムに要支援者情報を整備し、関係機関で情報共有を図った。今後、個別避難計画の作成など地域や関係機関を含めた防災部門と福祉部門の連携による支援体制の充実を図っていく。また、要配慮者利用施設における避難確保計画の策定を令和3年度より進めており、計画に基づく避難訓練についても、要請にもとづき職員を派遣するなど、今後も継続的な支援に取り組んでいく。

福祉避難所については、令和4年3月末現在で医療機関、社会福祉施設等と協定を締結し、6施設を確保しているが、未だ市街地での福祉避難所の確保ができていないため、福祉避難所として利用可能な社会福祉施設等をピックアップして、積極的に協定締結に向けた働きかけを行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定期	実績値	目標値
福祉避難所設置数 (累計)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	6 施設	6 施設	12 施設

横断的政策3 未来革新技術を活用します

施策1 Society5.0の推進

1 情報通信基盤を整備します

令和4年度で市内のケーブルテレビ網のFTTH化が完了し、市内の住宅において超高速通信サービスが受けられる基盤整備が完了する。

今後は、その情報通信基盤と無線通信技術と活用した加入促進に努めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
ケーブルテレビ加入率	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	74%	74%	74%

※現状値加入率は、ケーブルテレビ運営事業者がとりまとめた数値を掲載

2 デジタル化を推進します

AIやRPA等のツールを導入し、一部作業効率の改善がみられたが、全庁的な業務フローの根本的な再構築（BPR）につながっていない状況にある。

全庁的なBPRを推進するため、まずパイロットプロジェクトとして、小規模のBPRプロジェクトを行う。職員が主体的に参加し、効果が高いものから順番に実行していく。

未知のこと取り組むため、最初にすべてを設計するウォーターフォールではなく、変化に対応し続ける、アジャイルにてプロジェクトを遂行する。

BPRのプロジェクトビジョン・目標を設定し、現状の業務を分析し、可視化し、改善ポイントを明らかにし、るべき業務プロセスを設計するためのツール選定、テンプレート等を作成する。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
行政オンライン化手続数	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	4件	4件	49件

※目標値は、国の「デジタル・ガバメント実行計画（令和2年12月25日閣議決定）」による数。ただし、都道府県手続き、高梁市にない手続きは除く。

3 スマートシティの実現をめざします

令和4年4月からDX推進アドバイザーの協力を得ながら、様々な分野における課題を整理し、未来革新技術の活用について検討に着手している。

また、高梁川流域連携事業や民間事業者と連携し、高齢者等を対象にしたデジタルデバイド対策（スマホ教室）にも取り組み、効果の高い未来革新技術の導入に取り組む。

令和4年度施策マネジメントについて

1. 施策マネジメントについて

「高梁市総合計画」には、高梁市がめざす都市像「健幸都市たかはし」の実現に向けた「基本理念」や「基本方針」、これらを実現していくための「政策」やそれを支える「施策」、その展開方針が示されています。

また、「基本構想の推進方針」の一つとして、次のとおり「評価・検証の方針」を定めています。

5. 評価・検証の方針

基本計画において、都市像及び長期人口ビジョンの達成状況を測るための基本目標指標を定めるとともに、この基本目標指標の達成に向け、各施策の効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標）を定めます。

この基本目標指標と重要業績評価指標の達成状況を毎年把握し、庁内及び外部有識者会議での評価・検証も踏まえて、必要な見直しと改善を図り、翌年度への事業実施に活かしていくP D C Aサイクルを確立します。

「施策マネジメント」とは、「政策」を具体化して、各分野の方向性を示す「施策」について評価する制度のことです。毎年、「施策」の進捗状況を評価・検証し、今後の方向性を決定するもので、「事務事業評価」の基になる評価のことです。

総合計画では、「基本方針」の下に「政策」が、「政策」の下に「施策」が、「施策」の下に「施策の展開方針」が掲げられ、その下に様々な「事務事業」が連なっています。

「事務事業」の成果の一つひとつが「施策」の成果につながり、「施策」の成果の一つひとつが「政策」の成果へつながり、最終的に都市像である「健幸都市たかはし」の実現をめざします。



2. 施策マネジメント実施の目的

(1) P D C A サイクルの定着

前期基本計画で定める「めざすまちの姿」や「目標指標」の達成に向け、P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルの定着をめざします。

(2) 施策の着実な推進

解決すべき課題や見直すべき事項等を整理して、事業の推進や予算編成に反映することで、施策の方向性に沿った事業展開を図ります。

(3) 透明性の高い行政運営

施策の評価・検証に市民が参画する仕組みを構築するとともに、毎年、施策の進捗状況を公表し、市民と情報を共有化することにより、透明性の高い市民協働の行政運営をめざします。

(4) 目的意識を持った業務遂行

施策の目標や課題、進捗等を組織で共有するとともに、「めざすまちの姿」を再確認・再認識することで、職員一人ひとりが常に目的意識を持って業務を遂行することをめざします。

3. 施策マネジメント実施の流れ

6月～

7月 施策マネジメントシートにより、各施策の担当課で進捗状況の評価・検証を実施

8月22日 施策の進捗状況について、総合戦略推進本部（本部長：市長、部長級職員で構成）で協議

9月27日 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議（各種団体代表者等で構成）に進捗状況を報告し意見聴取を実施。

10月 有識者会議での意見を担当課にフィードバック。

「施策の進捗状況」について、市HPで公表。

10月～

11月 「施策マネジメント」及び「事務事業評価」の結果を基に、各所属において次年度予算編成